

「森林を増やして、生物を増やす」

これは、小学校の卒業アルバムに載っている私の将来の夢だ。私は自然が大好きだ。小さい頃はよく森を駆け回っていたし、生物が大好きで昆虫やカメや魚など多くの生き物を飼っていた。だが、私が知っているほんの10年弱のあいだですら、自然の減少が感じられるというのが、地球の環境問題の現状だ。昔たくさんのザリガニやカエルがいた池はコンクリートで埋められ、昆虫や蛇がいた森の木は伐採されてしまった。

小学5年生の時、SDGsについて調べて新聞を作る課題があり、私は「陸の豊かさを守ろう」をテーマに選んだ。その新聞には「森林は、空気や水、食料に至るまで、生命を維持するために大切な役割をもち、約16億人が森林に生計を依存している」と書いてある。持続可能な開発の必要性を改めて実感した。また、貧困層の75%が土地劣化の影響を受けているそうだ。土地劣化を改善するには多額の費用が必要なため、貧しい国では土壤改良を完璧に行うのは難しいのだろう。環境問題は環境だけの問題ではなく、貧困も関係している。そして、マータイさんもおっしゃるように、民主主義や平和とも繋がっているのだ。日本だと、ある程度生活が守られているため、生活が脅かされるというのは、想像が付きにくいかもしれない。だが、環境の破壊によって、生活が脅かされている人たちもたくさんいることを忘れてはいけない。

環境破壊は、森林などといった陸上に限った話ではない。去年の夏、生物部の合宿で海に行った際、砂浜に流れ着いたものを拾う活動をした。生物の骨なども見つかったが、ガラスやビンといった人工的なものが圧倒的に多かった。海外のビンが日本に流れ着くということは、相当な量のゴミが海に漂っているということだ。一方で、沖縄でシュノーケリングをした際、綺麗で魚がたくさんいる海を、身をもって体験することができた。美しい自然を肌で感じて、この自然を守りたいと強く思った。

マータイさんがグリーンベルト運動を始めた1977年は、まだ地球全体の環境を良くするという発想も、環境開発と民主主義と平和を結びつけて考えるという発想もあまりなかっただろう。そんな時代に、1人の女性が働きかけ、運動を長く続けたことで、今では世界全体で考えられている問題となった。その活動をする勇気と実行力は素晴らしいものだと思う。私も世界のために、地球のために、そして未来のために、自分にできることをやりたいと思う。